

令和8年度第1回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和8年(2026年)4月28日(火) 午後1時30分～午後2時30分

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民:小川委員、清水委員、新井委員

市民団体:小野寺委員

学生 :田中委員、五味委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、多治見委員、内田委員、津嶋委員(本人欠席のため代理出席)

【環境政策課長】

成澤委員

【施設課長】

井上委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、河本、土屋

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

公募市民:小松原委員

市民団体:関口委員

学生:興津委員、鈴木委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員

傍聴者 なし

次第

- 1.開会
- 2.自己紹介
- 3.議事

- 4.その他
- 5.閉会
- 6.※協議会終了後に施設見学(※希望者のみ)

■主な内容

<協議会>

1. 開会

・開会のご挨拶(日野市)

2. 自己紹介

3. 議事

事務局より説明。

① 第4次日野市ごみゼロプラン策定について

(質疑応答)

A 委員:第4次ごみゼロプランでは新たに食品ロス削減推進計画を策定することになる。食品ロスに係る国や東京都等の行政の考え方や最新動向について共有する場を設けていただきたい。

事務局:食品ロスに加え、ごみや生活排水に関する国や都の関連法令・計画や社会の動向についても整理し、提示していく予定である。

② ごみ組成分析調査の実施概要

(質疑応答)

B 委員:組成分析調査項目において、各項目の潜在的な資源物量が資料上では不明確である。

事務局:実際の調査において、項目ごとに資源化の可否を判断する。

A 委員:ごみに含まれる水分量はどのように扱うのか。組成分析調査項目に含めるべきではないか。

事務局:本調査において、水分量そのものの計測は行わない。

事務局:可燃ごみについては、収集してそのままの状態ですぐ乾燥ベースのごみの組成分析を毎年度行っているため、そのデータを参考にすることはできる。今回の調査は、収集運搬車から採取するごみを対象としており、ごみの水分そのものを直接計測することは行わない。

B 委員:野菜や果物の皮などは食べられるため、不可食部に該当する調理くずではなく、可食部(食品ロス)として扱うことはできないか。

会長:野菜等の皮は一般的に多くが廃棄される実態がある。原案の調査項目でも食品ロス対策を検討する上では十分なデータが得られると考

えている。また、厨芥類の項目の分類については、組成調査の現場の写真を協議会で共有することも有用だと考えられる。

会長：次回の協議会時に、組成調査の現地視察が予定されているが、対象がプラごみとなっている。可燃ごみではない理由は何か。

事務局：可燃ごみの調査場所となるプラットフォームへの立ち入りが困難であり、見学者コースからの視察となるためである。プラごみであれば、間近での排出状況の視察が可能である。

4. その他

第2回協議会：令和8年5月26日（火）13:30～

5. 閉会

<施設見学（※希望者のみ）>

- ① 浅川清流環境組合 可燃ごみ処理施設
- ② 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設